

星野リゾートの環境経営

2013年5月28日

株式会社星野リゾート 軽井沢事業所
環境マネジメント担当 小林崇宏



星野リゾートのmission

日本の観光をやばくする！

日本の観光産業の
魅力アップ

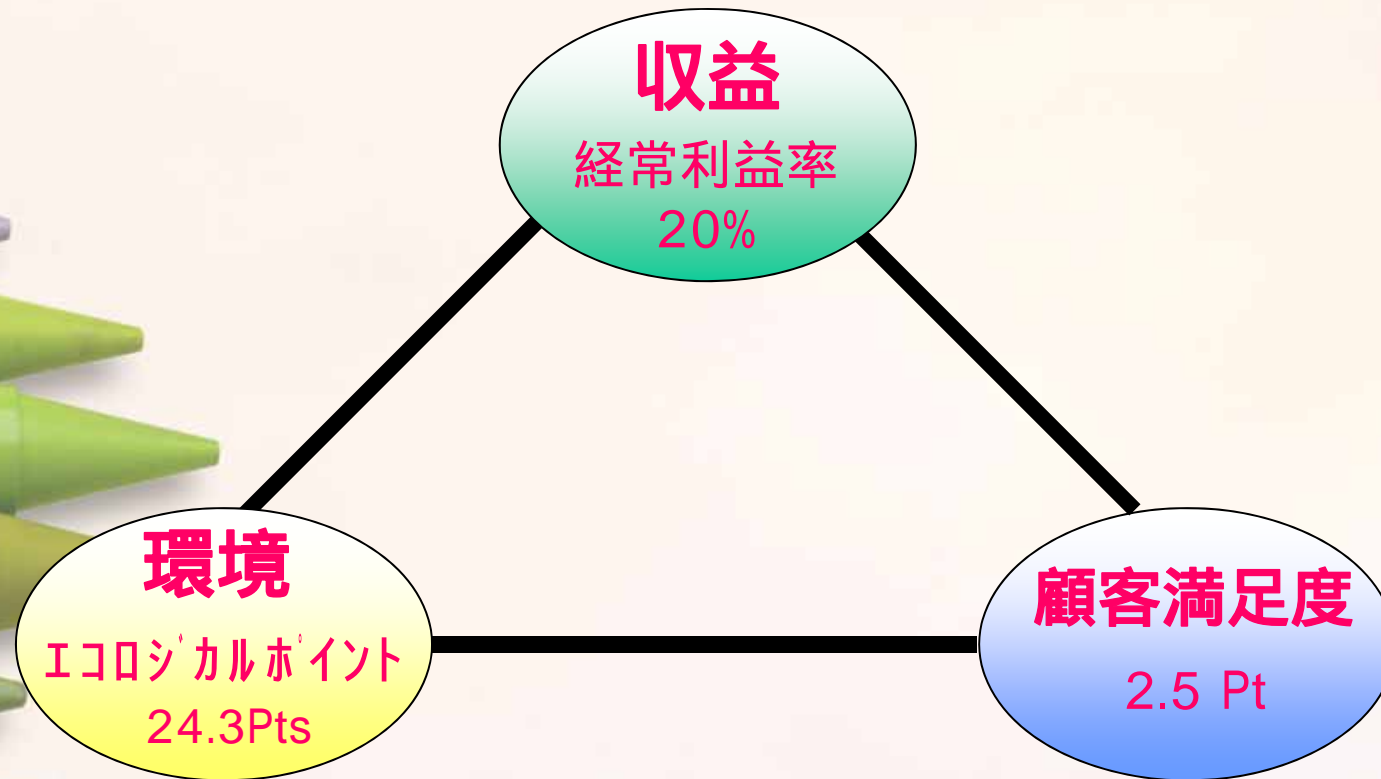
観光産業の生産性を
グローバルスタンダードへ

日本の観光の
国際競争力
アップ

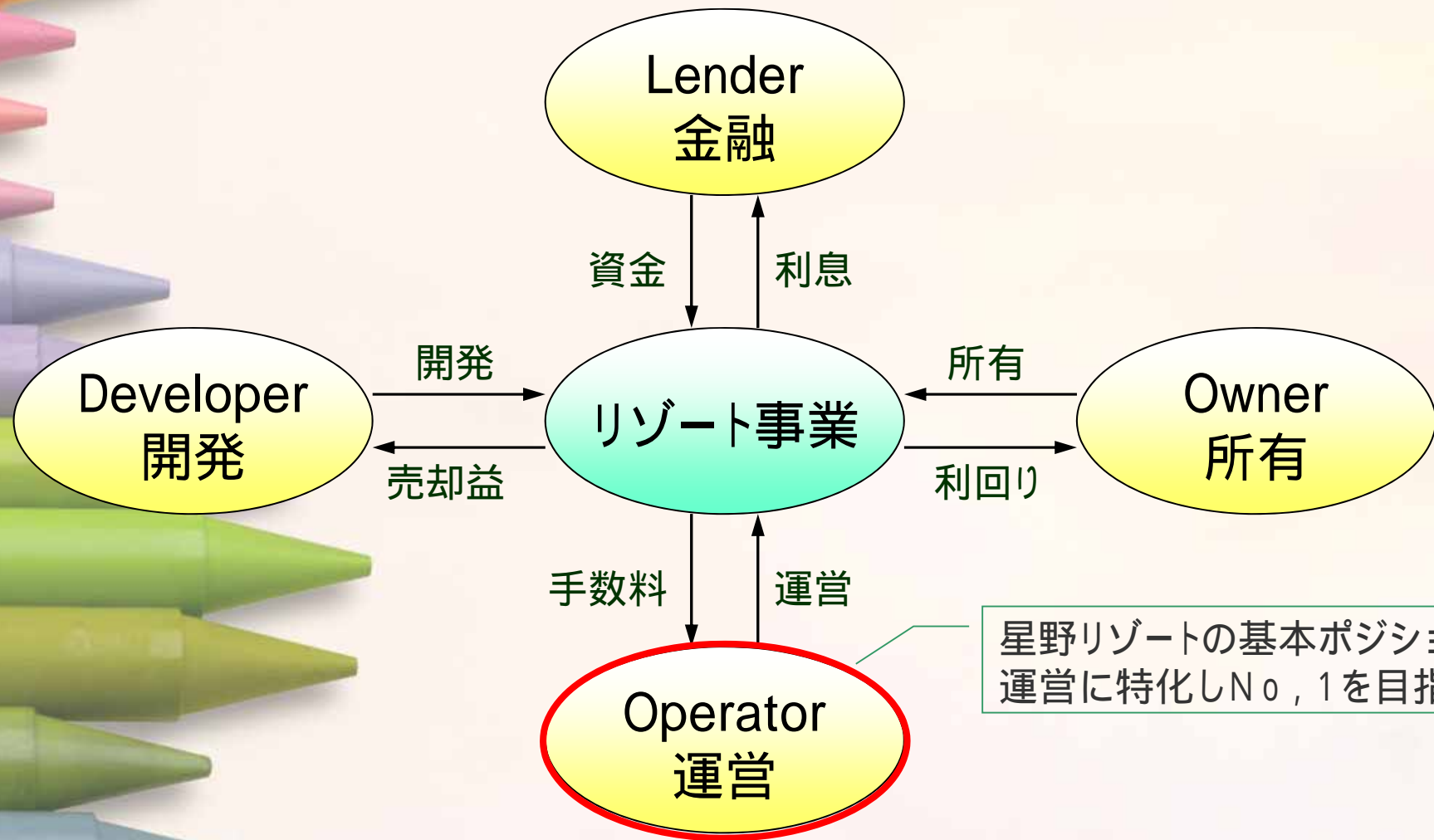
地方経済の
持続可能な
仕組みへ

星野リゾートのビジョン

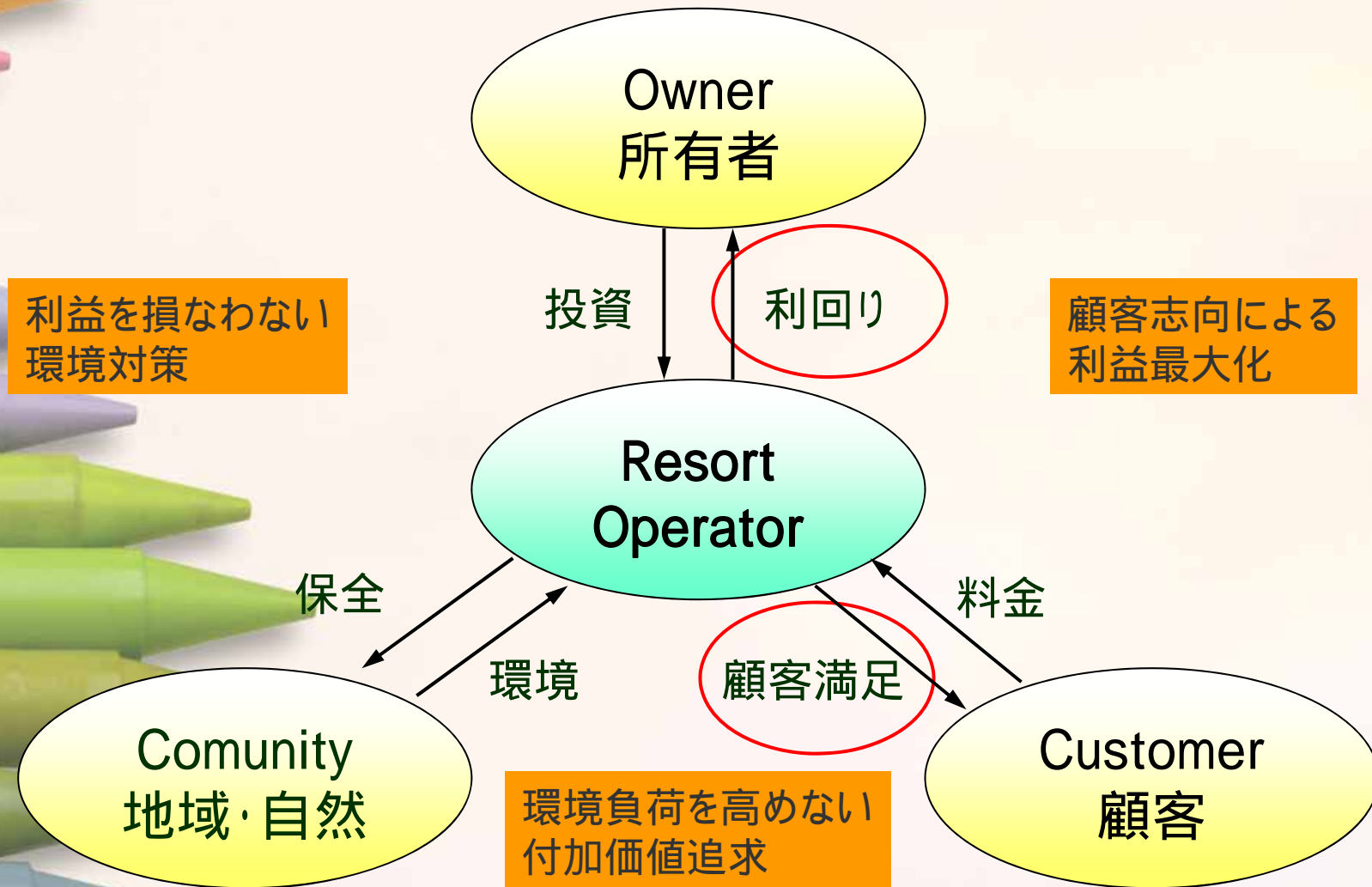
リゾート運営の達人 (= 3指標の同時達成)



リゾート事業における4種の役割



持続可能なリゾート運営の概念



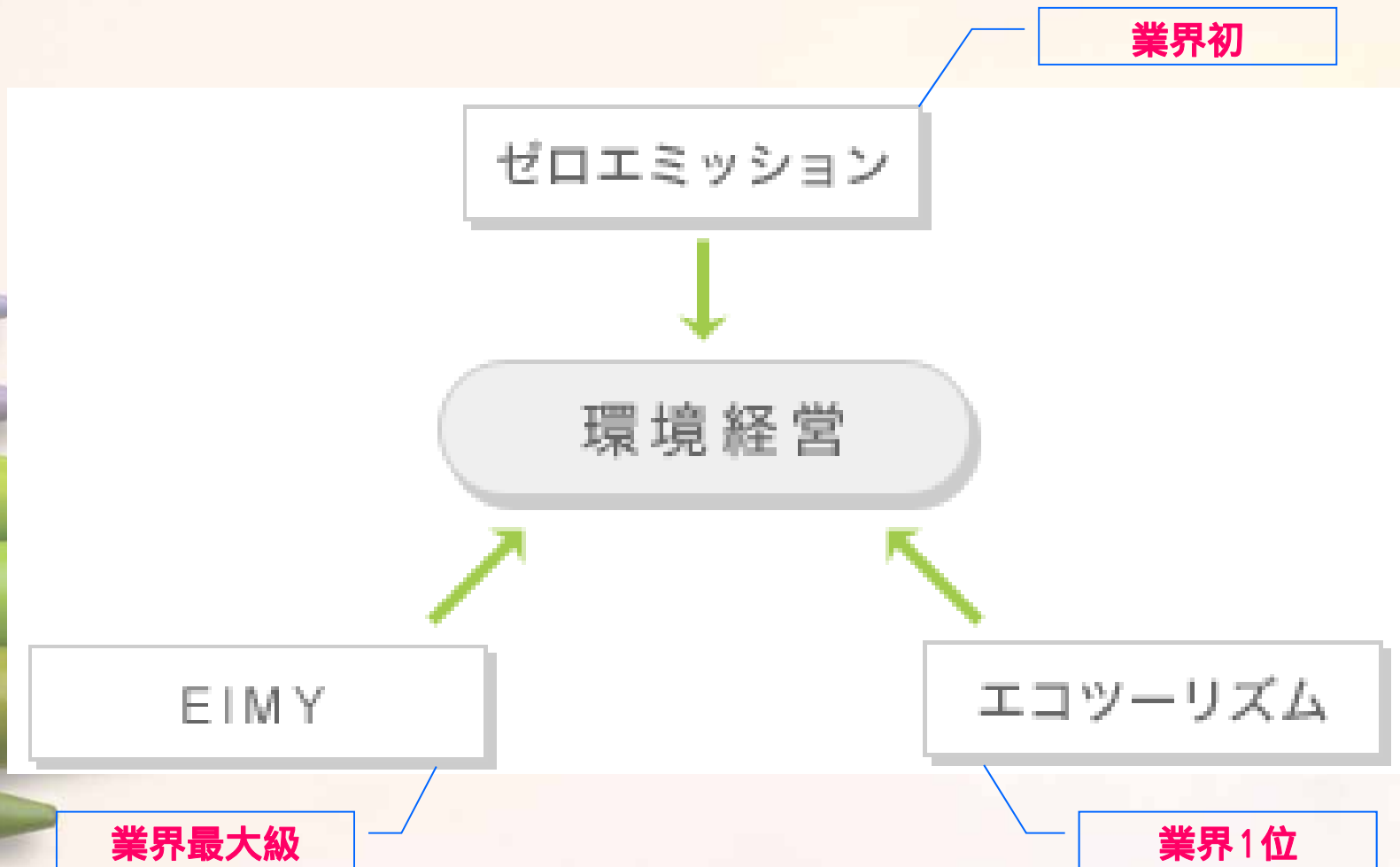


リゾートの資源は何か？

「自然環境」が、リゾートの資源である

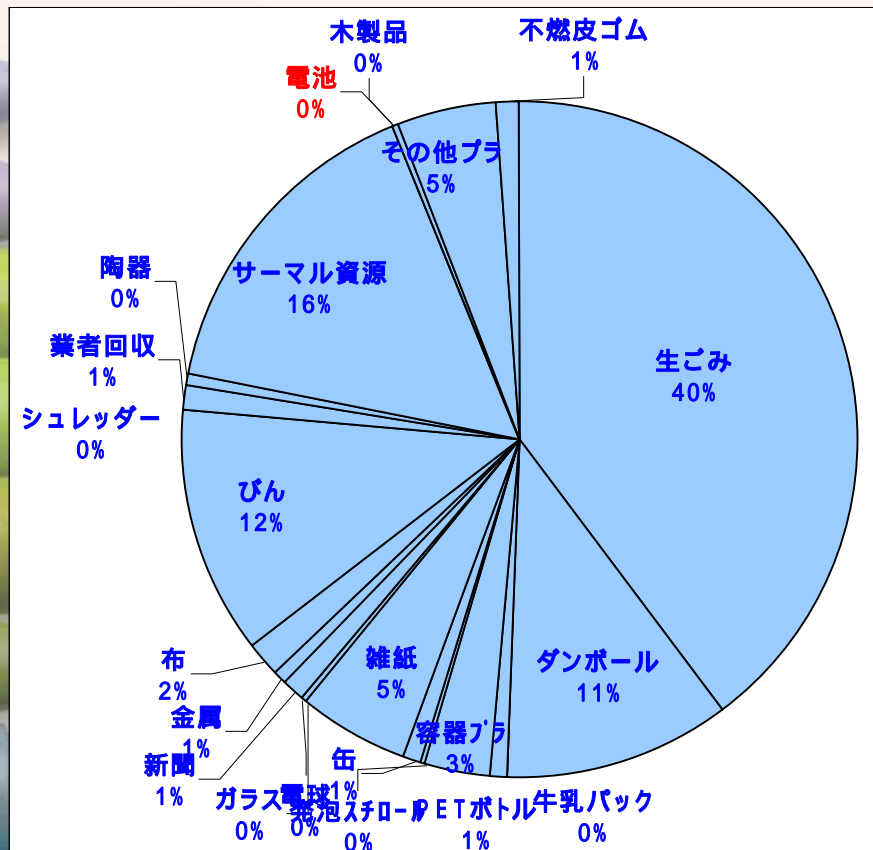
- リゾート地において、自然環境を保全できるかどうかは資産価値の維持に不可欠
- 同じ投資効果があるならば、「環境配慮型運営」のできる運営会社を必ず選択する

環境経営の3要素



ゼロエミッションの定義（星野リゾート）

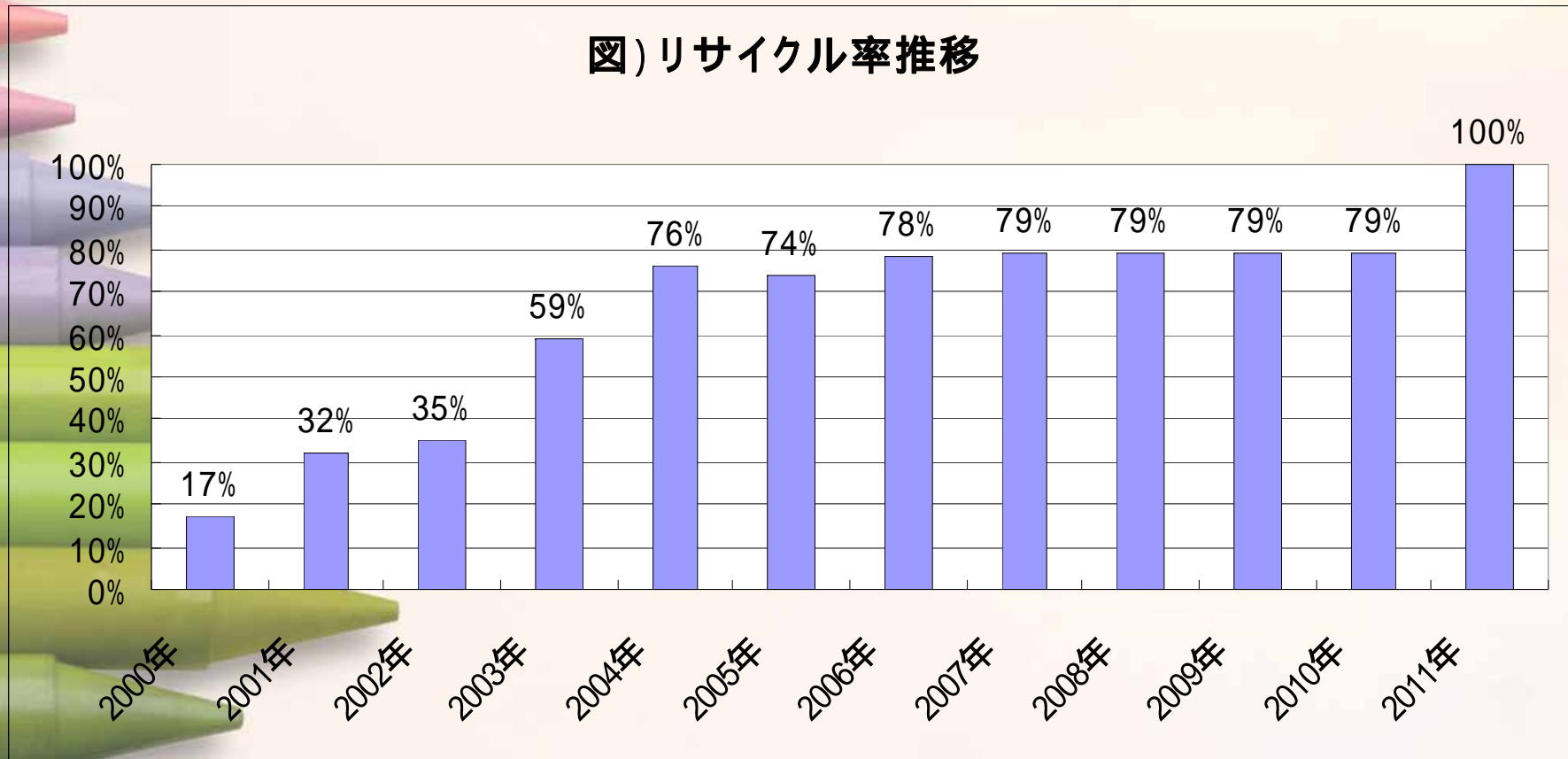
リゾート運営で排出される廃棄物について、
「埋め立て・単純焼却」がゼロの状態



リサイクル率推移

- 2011年、ホテル・飲食業界で初の100%達成

図) リサイクル率推移



廃棄物一覽 (軽井沢事業所)

資源の種類		リサイクル後			
1	食品資源	堆肥	16	割箸	コト-用紙・トイレットペーパー
2	汚泥	堆肥	17	歯ブラシ	歯ブラシ
3	シュレッダー	子牛のベッド	18	ブラシ	プラスチック製品
4	プラスチック容器包装	プラスチック製品	19	クシ	プラスチック製品
5	布	自動車の防音材	20	インクカートリッジ・トナー	リユース
6	ビン	ビン	21	リターナブルビン	リユース
7	電球・蛍光灯	ガラス製品と鉄製品	22	廃酸(現像液)	銀
8	発泡スチロール	プラスチック製品	23	廃油	塗料
9	ガラス・陶器	路盤材	24	樽・木箱	工芸品としてリユース
10	金属	金属製品	25	家電リ法対象家電	(メーカーにて解体後リサイクル)
11	缶	金属製品	26	サーマル資源	温浴施設の発熱
12	段ボール	紙製品	27	サーマルその他・プラ	固型燃料(印刷会社使用)
13	牛乳パック	紙製品	28	木製品	固型燃料(印刷会社使用)
14	雑紙・新聞紙	紙製品	29	電池	亜鉛化合物・鉄製品
15	ペットボトル	プラスチック製品	30	教会キャンドル	キャンドル

リサイクル例（食品資源）

北軽井沢高原牧場で堆肥化



星野リゾートの生ごみ



堆肥でできた安全でおいしい野菜



星野リゾートが仕入れて提供



リサイクル例（客室アメニティ）

- 歯ブラシ、ブラシ、石鹸などはメーカーでリサイクル



リサイクル例（有価物）

- 紙類、缶、ペットボトル、金属などは売却



リサイクル（食器：ガラス・陶器）

- 食器へのリサイクルも検討したが、現在は路盤材としてリサイクル



リサイクル（焼却せざるを得ない資源）

- プラスチック：固形燃料
その他：焼却熱を熱源とした給湯利用



* ごみの優先順位（循環型社会形成推進基本法）

- ・ Reduce・・・ごみを出さない
- ・ Reuse・・・ごみにせず再利用する
- ・ Recycle・・・ごみを再資源化する
（＝分別して捨てる）
- ・ 熱として回収する
- ・ 適正に処分する

分別徹底

- 資源分別ゲーム「シゲカツ」の
全社員での一斉実施（年1回）



分別徹底

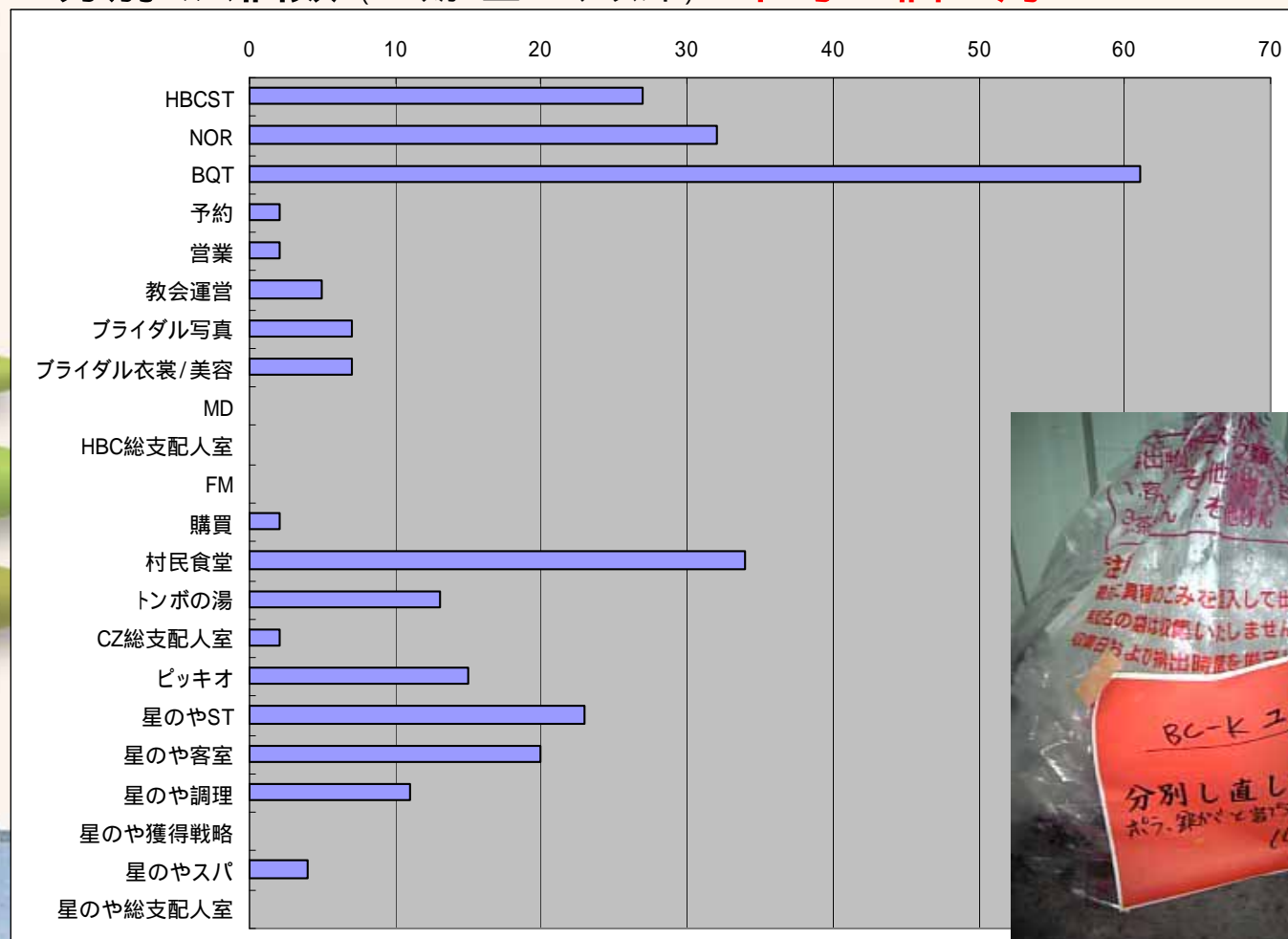
- 月 1 回、関連部署での食品資源運搬



分別徹底

・資源ステーションパトロール

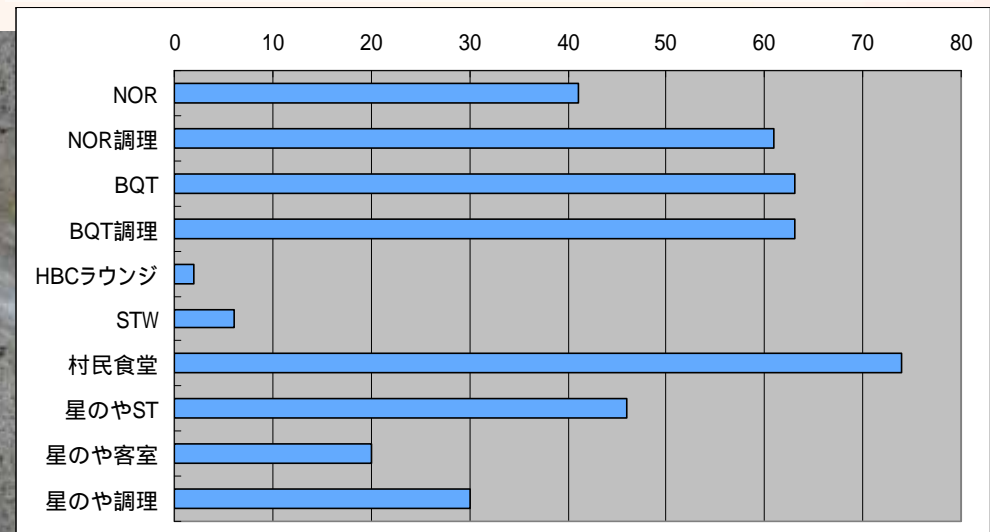
* 分別ミス個数 (60期・生ごみ以外) **平均22個 / 月**



分別徹底

- 分別ミス、異物の計測

* 生ごみ異物混入個数 (60期) **平均34個 / 回**



計量



廃棄物の計量とバーコード入力の様子



廃棄物の集計結果

リデュース（使い捨てスリッパ）

- ・ウォッシュャブルスリッパに変更

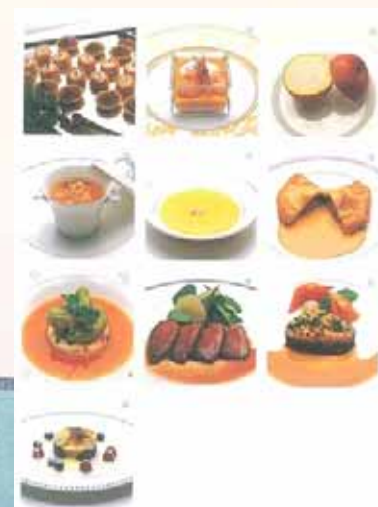
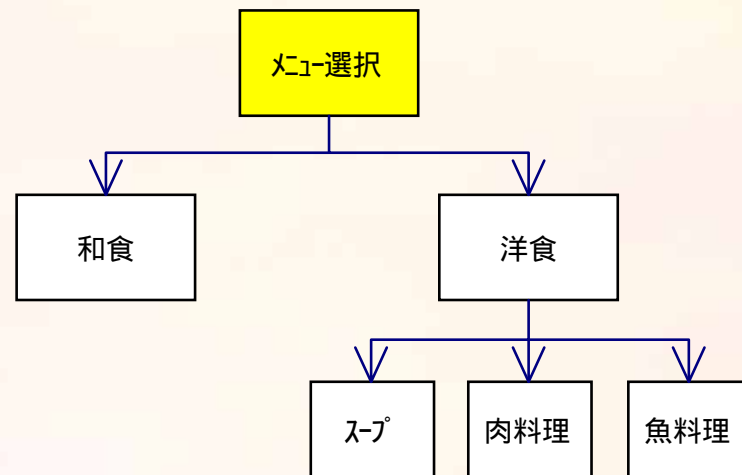


* ごみの優先順位（循環型社会形成推進基本法）

- ・ Reduce …ごみを出さない
- ・ Reuse …ごみにせず再利用する
- ・ Recycle …ごみを再資源化する
（＝分別して捨てる）
- ・ 熱として回収する
- ・ 適正に処分する

リデュース（食べ残し）

- 日本初、当日選択式のウェディングメニュー



リデュース（電池）

- 使い捨て電池をエネルギーープに



ゼロエミッション推進体制

総支配人と全部署によるプロジェクトチーム。
実際の活動をしていくのは全スタッフ！

